

(数学) 学習指導案					
日 時	平成 20 年 6 月 11 日(水)第 3 限	指導者	(省略)		
学 級	2 年 2・3 組	教 室	学 習 室 3		
単 元	連立方程式	教科書	未来へひろがる 数学 2 (啓林館)		
単 元 目 標	数量の関係を 2 つの文字を用いて等式に表し、これを用いて実際の問題を形式的・能率的に処理することができるようにする。	指 導 計 画	1 連立方程式とその解 2 時間 2 連立方程式の解き方 5 時間 3 連立方程式の利用 4 時間 (本時はその 3) 4 練習問題 2 時間		
主 題	連立方程式の利用 (割合の問題)	課 題	課題プリントを解いておく。		
目 標	1 連立方程式を利用して、問題を解決できるようにする。 2 意欲的に粘り強く問題に取り組む態度を育成する。				
	学 習 内 容	時間	指導上の留意点・評価の観点	資料等	
本 時 の 指 展 導 過 程	導 入	5	・ 割合は身近なところで使われていることに気がつかせる。 (関心・意欲)		
	展 開	1 割合について確認をする。	5	・ 課題の解答をする。 (関心・意欲) ・ くらべる量と、もとにする量の関係で考えさせる。 (知識・理解)	課題プリント
		2 教科書 p39 例題 3 「シャツとパンツの定価を求めたい。定価どおりの値段と実際に払った金額から式を立てよう。」の説明を聞く。	10	・ 問題に含まれている数量の関係に気づかせる。 (知識・理解) ・ 2 つの文字を用いて、連立方程式をつくることができるようにさせる。 (見方・考え方)	ワークシート
		3 教科書 p39 問題 4 (例題 3 「シャツとパンツの定価をそれぞれ求めよう。」) を解く。 4 教科書 p42 章末問題 5 を解く。	10 15	・ 連立方程式を解いてそれぞれの定価を求めさせる。 (表現・処理) ・ 例題 3 を参考にしながら、考えさせる。 (表現・処理)	
	整 理	5	・ 要点を再確認する。		
次 時 の 課 題	1 教科書 p41 基本のたしかめを解いておく。 2 クリアノート p36 を解いておく。				
備 考	生徒数 23 名 (男子 11 名 , 女子 12 名) A 講座				